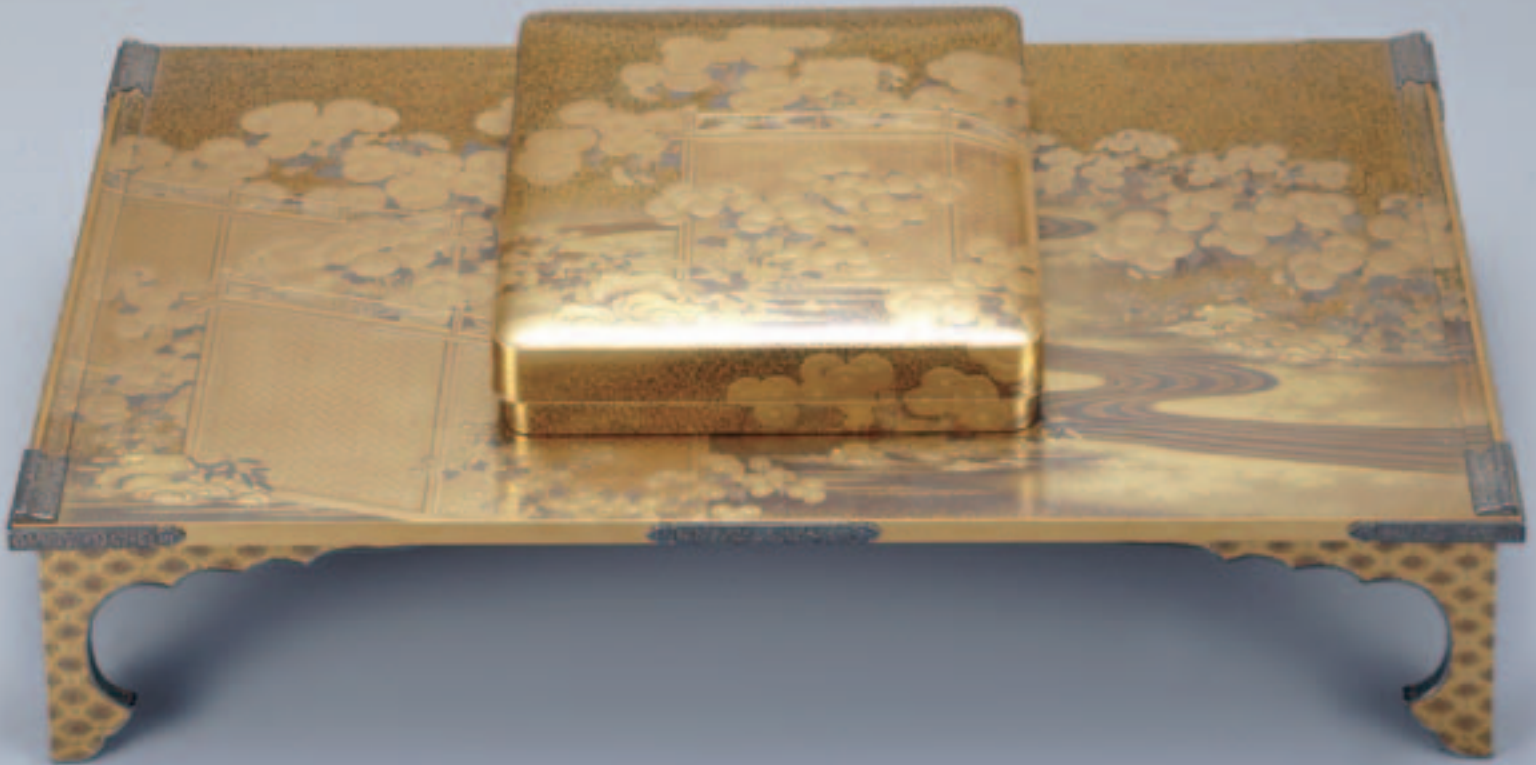


岡島コレクション展	[2~3]
久世建二 ~3.11へのオマージュ~ (イベント報告)	[4~5]
北川健次展「Kenji Kitagawa—鏡面のロマネスクー—」	[6]
福井県立美術館 館蔵品紹介、友の会旅行	[7]
お知らせ・貸館情報	[8]
福井県立美術館 次回の展覧会案内	[8]

表紙：「検垣菊蔭絵文台硯箱」 江戸時代<19世紀> (岡島コレクション展より)



岡島辰五郎没後50周年記念 岡島コレクション展



①



②



③

平成24年

3月2日 **金** - 3月25日 **日**

- 開館時間◎午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)
- 休館日◎3月12日(月)
- 観覧料◎一般300円 大高生200円 中小生100円
※30名以上の団体は2割引 ※学生割引は学生証の提示が必要です
※身体障害者手帳等所持者とその介護者1名半額
(但し障害者手帳等に介護印のある方のみ)
- 主催・会場◎福井県立美術館
- 共催◎財団法人 岡島美術財団

- ①軍扇文金合口拵 江戸時代(18世紀)
- ②獅子図三所物 紋・後藤祐乗 室町時代(16世紀)
- ③時雨に鹿図鐺 春田広次 江戸時代(19世紀)
- ④金唐革腰差し煙草入 江戸時代(19世紀)
- ⑤銅造観音菩薩立像 中国・北齊時代(6世紀)
- ⑥享保大判 江戸時代・享保10(1725)年

※作品は全て福井県立美術館蔵

[同時開催] ※本展チケットでご覧いただけます
「久世建二 3・11へのオマージュ」展
所蔵品によるテーマ展「版画を訪ねる」

関連イベント

- 講演会 ※於 当館講堂
日時 3月18日(日) 午後2時より 聴講無料
演題 「日本刀と拵の美」 講師 梅田光雲氏(御刀砥師)
- 学芸員によるギャラリートーク ※於 展覧会場
日時 3月4日(日)、25日(日)午後2時より 要展覧会チケット



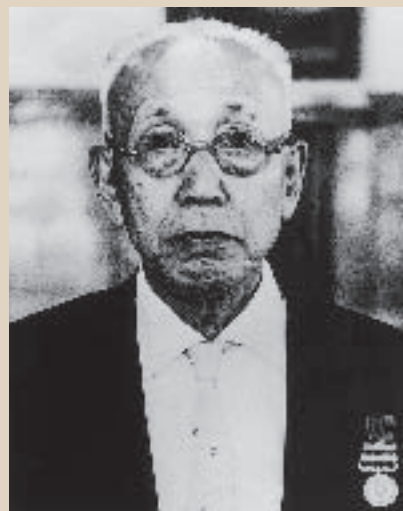
④



岡島コレクションは、福井県出身の岡島辰五郎（おかじまたつごろう）氏（明治13～昭和37年）が、アメリカ・ニューヨークで美術商を営む間に収集した、日本および東洋の金工を主とする美術工芸品のコレクションです。その内容は刀装具や喫煙具、金銅仏、貨幣、漆器など多岐にわたっています。

岡島氏は、これらのコレクションを、昭和33（1958）年に美術館建設資金とともに福井県に寄贈し、同コレクションは、寄贈資金によって建設された「福井県立岡島美術記念館」で展示・公開されることになりました。以来同記念館は県内初の美術館として、コレクションの紹介の他各種展覧会を開催するなど、福井県の文化の発展に大きく寄与し、その存在はコレクションと共に長く県民に親しまれてきました。しかし同記念館は、昭和62（1987）年に老朽化によって閉館となり、以後コレクションは県立美術館に移管されました。

本展は、今年が岡島氏の没後50年にあたるのを機に開催するもので、コレクションの中から優品を厳選して展示、その魅力をご紹介いたします。



岡島辰五郎氏



福井県立岡島美術記念館外観

岡島辰五郎氏略歴

岡島辰五郎氏は明治13（1880）年、もと大野藩重臣の岡島七郎・きん夫妻の四男として、福井県大野郡大野町水落（現在の大野市水落）に生まれました。大野町立有終尋常高等小学校卒業後に上京、本郷の私立共立美術学館に進み、明治30（1897）年、22歳で東京美術学校（現在の東京藝術大学）鑄金科に入学しました。卒業後は東京で鑄金業に従事し、その間東京彫工会競技会に作品を出品、明治37（1904）年に二等褒章を、明治38（1905）年には二等銀賞を受賞し、同年に部審査員も務めています。そして明治40（1907）年、32歳で渡米し、2年後にニューヨークのティファニーに入社し、鑄物の原型制作に従事していたようです。また同年より45年まで、同地のThe Cooper Union for the Advancement of Science and Artの夜間コースでデザインと鑄造を学んでいます。その後、大正1（1912）年に、世界的な東洋古美術商・山中商会のニューヨーク支店に入社、作品の修理を担当していました。さらに大正7（1917）年、38歳で独立し、ニューヨーク市内に東洋美術を取扱う「日本美術商会」を開業しました。そして昭和33（1958）年には、コレクションと美術館建設資金720万円を郷里福井県に寄贈。昭和37（1962）年、ニューヨークで82歳で亡くなりました。



6

二〇一一年三月十一日
日本における観測史上最大の
規模を記録した東日本大震災。
あれから一年・・・。

久世建二 3.11へのオマージュ

KENJI KUZE

2012年3月2日(金) - 25日(日)

午前9:00 - 午後5:00(入場は4時30分まで) 休館日: 3月12日(月)

福井県立美術館 野外展示場(2階屋外)

※会場が屋外であるため、雪で鑑賞できないこともありますので、予めご了承下さい。

観覧料：企画展「岡島コレクション展」(一般:300円、大高生:200円、中小生:100円)、または所蔵品によるテーマ展「版画を訪ねる」(一般・大学生:100円)のいずれかのチケットでご覧いただけます。

※本展のみのチケットは販売していません。

主催:福井県立美術館 共催:福井新聞社

関連イベント記念対談(聴講無料)

●久世建二×秋元雄史(金沢21世紀美術館館長)

3月11日(日)午後2:00～午後3時30分頃

※当館講堂にて

同時開催

●企画展「岡島辰五郎没後50周年記念 岡島コレクション展」

●所蔵品によるテーマ展「版画を訪ねる」

※ご来場の際は、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。
お車の際はアイドリングストップにご協力ください。

久世建二(くぜ・けんじ)氏は1945年福井県坂井郡芦原町(現:あわら市)生まれの現代陶芸家で、現在金沢美術工芸大学長。芦原焼の窯元に生まれたが、これまで純粹造形としての作品を追求し、独自の世界を確立してきた。しかし、9.11テロや3.11東日本大震災の災害に接し、これまでの作風とは異なって、墓標や人型の陶のオブジェをインスタレーションとして展示するという感情を揺さぶるような一連の作品を制作し始めた。これらの墓標のオブジェが、現在金沢21世紀美術館で開催中のコレクション展「サイレント・エコーⅡ」(2011年9月17日(土)～2012年4月8日(日))の中で展示されている。当館では、東日本大震災の発生から1年経過したこの時期に、「久世建二 3.11へのオマージュ」と題して、これらの墓標や人型のオブジェを数十点展示し、災害の痛みと悼みを内包した久世氏のもう一つの世界を紹介するとともに、3.11東日本大震災への鎮魂としたい。なお期間中は、当館と金沢21世紀美術館で久世氏の同じ内容の作品が展示されることになる。



久世建二 略歴

昭和 20 (1945) 年	福井県坂井郡芦原町 (現：あわら市) に、芦原焼きの窯元二代天声の次男として誕生。
昭和 43 (1968) 年	金沢美術工芸大学工業デザイン専攻卒業。卒業後、愛知県立瀬戸窯業高等学校教諭となり陶磁器デザインと陶芸の指導をする。
昭和 46 (1971) 年	「日本陶芸展選抜アメリカ・カナダ巡回」展に出品。「現代の陶芸アメリカ・カナダ・メキシコと日本」展 (東京国立近代美術館) に出品。
昭和 47 (1972) 年	「ファエンツァ国際陶芸」展 (イタリア) に出品。ラベンナ観光局長賞受賞。
昭和 48 (1973) 年	「日本陶芸展選抜メキシコ・アルゼンチン巡回」展に出品。
昭和 49 (1974) 年	「第 11 回日本国際美術」展に出品。
昭和 54 (1979) 年	「JAPAN TODAY」(アメリカ シカゴ) に出品。
昭和 55 (1980) 年	「CLAY WORK やきものから造形へ」(大津、東京) に出品。
昭和 57 (1982) 年	「イタリア巡回日本現代陶芸」展 (ローマ、ファエンツァ) に出品。
昭和 59 (1984) 年	金沢美術工芸大学工芸デザイン専攻講師に就任。
昭和 60 (1985) 年	「国際現代陶芸」展 (台北市立美術館) に出品。
昭和 62 (1987) 年	「87 八木一夫賞現代陶芸」展に出品。大賞受賞。
平成 3 (1991) 年	「世界陶芸祭コンペ」(信楽) に出品。優秀賞受賞。
平成 5 (1993) 年	「世界の工芸」展 (京都国立近代美術館) に出品。
平成 7 (1995) 年	金沢美術工芸大学工芸科陶磁コース教授に就任。
平成 8 (1996) 年	「冒険美術アドベンチャー・大地のささやき」展 (滋賀県立近代美術館) に出品。
平成 11 (1999) 年	「NHK 衛星放送『やきもの探訪』」展 (東京 日本橋高島屋) に出品。
平成 13 (2001) 年	「金沢 21 世紀美術館収集作品」展に出品。
平成 14 (2002) 年	「第 2 回円空大賞」展に出品。円空賞受賞。「久世建二の世界」展 (名古屋芸術大学) 開催。
平成 15 (2003) 年	「久世建二」展 (伊丹市立工芸センター) 開催。
平成 16 (2004) 年	「久世建二」展 (常滑 INAX TILE MUSEUM) 開催。
平成 17 (2005) 年	「珪藻土アートプロジェクト Installation 古代からのおくりもの」(金沢 21 世紀美術館) に出品。「疎通と拡散—韓中日国際陶芸交流」展 (ソウル ミラル美術館) に出品。
平成 18 (2006) 年	「現代陶芸の粋—東日本の作家を中心に—」展 (茨城県陶芸美術館) に出品。
平成 19 (2007) 年	「物が語る 日本と韓国 国際現代美術」展 (倉敷市立美術館) に出品。金沢美術工芸大学 学長に就任。
平成 20 (2008) 年	Collaboration 土の魅力・擬態する土/観照 (Meditation) 心想の世界」展 (金津創作の森) に出品。
平成 21 (2009) 年	「朝日現代クラフト」展 (大阪) に招待出品。
平成 22 (2010) 年	「国際丹南アートフェスティバル」(越前市) に出品。
平成 23 (2011) 年	「サイレント・エコー コレクション展 II」(金沢 21 世紀美術館) に出品。「ファエンツァ国際陶芸展日本人歴代受賞作家」展 (東京 イタリア文化会館) に出品。
平成 24 (2012) 年	「久世建二 3.11 へのオマージュ」展 (福井県立美術館) 開催。

その他、個展、グループ展出品多数。



▲落下痕跡9.11-2009 photo:三津努



▲落下痕跡9.11-2008 photo:三津努

「北川健次展 — 鏡面のロマネスク —」

2011年11月27日(日)～12月25日(日)
 主催・福井県立美術館 共催・福井新聞社

《イベント報告》

福井県出身の美術家・北川健次氏の公立美術館では初となる個展が、昨年11月27日(日)から12月25日(日)まで開催されました。版画、オブジェ、コラージュ、ミクストメディア、写真の各分野から選りすぐられた代表作220点により、初期作品から新作まで約40年に及ぶ創作の軌跡を展覧しました。北川氏は、展示作業から3週間に渡り福井に滞在され、さまざまな関連イベントに精力的に参加いただきました。また、会期に合わせて共催いただいた福井新聞紙上で、8回に渡る連載記事「美の回想」(当館ホームページに転載中)も執筆いただきました。展覧会と数々のイベントにより、氏の比類ない芸術世界とその魅力が発信されました。

◎出品作家によるギャラリートーク

[講師] 北川健次 [場所] 当館展示室

[日時] 11月27日(日)14:00～、12月10日(土)14:00～

* * * *

開幕初日から多くの熱心な参加者が詰めかけました。「これだけまとまった自身の作品に对峙することは、私にとっても初めての体験。」と語る北川氏により、臨場感あふれる語りのパフォーマンスが繰り広げられました。氏の創作のキーワードである虚構、フィクションについて、「実は、版画集『ローマにおける僅か七ミリの受難』は、ヨーロッパでローマの集団に襲われた体験がもとになっている。」など知られざる刺激的なエピソードも飛び出しました。

◎記念対談 北川健次の創作の秘密に迫る

[出演] 北川健次(本展出品作家)×芹川真夫(当館館長)

[場所] 当館講堂 [日時] 12月11日(日)14:00～

* * * *

代表作品の画像を大画面に映しながら、芹川館長の周到に準備された質問に答えるかたちで進められた対談では、ギャラリートークとはまた趣を変え、北川氏の理知的で客観的な側面が浮かび上がりました。佐伯祐三、三島由紀夫からデューラー、フェルメール、ランボー、ピカソ、デュシャン等々、世界の芸術史上の巨人たちを、独自の視点で自身の表現のエッセンスに結び付ける北川氏の感性と知性の触手の柔軟さに、聴衆は驚きをもって魅了される時間となりました。「いまでも朝起きると、子どものように、自分はこれから何になろうかと考えてしまうのです。」とユーモラスに語る北川氏は、最後に「これを括りとしての回顧展といった想いは全くない。むしろ、これをステップとしての新たな出発点だと思っている。」と、あくなき創作への情熱で対談を結びました。

◎第1回「美術作家育成塾」(主催：福井県教育委員会)

①講義「現代美術へのアプローチ～プロの表現者を志す人のための特別講座」

②講師による受講者作品の講評

[場所] 当館第4研修室 [日時] 12月3日(土) 13:00～17:00

③制作「現代美術としてのコラージュの可能性を迫る!!」

[場所] 当館実技研修棟第2研修室 [日時] 12月4日(土) 10:00～17:00

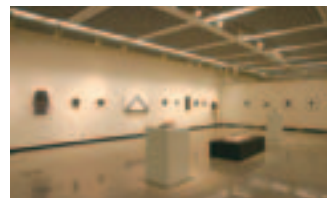
* * * *

世界のアートの最新状況や今後の展望、プロの美術作家になるために必要なことや制作技法などについて、国内外の第一線で活躍するアーティストから直接指導を受けることができる講座の第1回として北川氏が講師を務めました。作品講評では、大型の作品も持ち込まれ、第一線で活躍する現役作家の鋭い観察が、充実した対話を呼び寄せていました。制作では、北川氏が独自の技法を実演しながら開陳すると、参加者らは食い入るように見つめ、強烈な刺激となる様子が見てとれました。たいへん濃い内容の2日間のプログラムとなりました。

◎E&Cギャラリー

* * * *

11月30日～12月11日の会期にて、E&Cギャラリー(NPO法人、福井市中央1-20-25 三井ビル3F)でも北川氏の個展が開催され、アーティストトーク等が催されました。



北川健次展 展示風景



出品作家によるギャラリートーク 北川健次氏



出品作家によるギャラリートーク 会場風景



記念対談 北川健次氏



記念対談 芹川真夫館長



記念対談 会場風景



美術作家育成塾 受講者作品の講評



美術作家育成塾 制作

菱田春草『落葉』

紙本著色 六曲一双屏風 1909(明治42)年 (各)154.0×354.3cm



近代日本画の不朽の名作「落葉」を遺した菱田春草(1874～1911)は、理知的で進取の気質に富んだ人物でした。しかし健康に恵まれず、33歳の時に眼病を伴う腎臓病を患い、一時失明の危機に陥ります。その後何とか回復し、清新な感激に満ちた目で自然を観察し生まれたのが、晩秋の代々木の風景を描いた「落葉」の連作でした。

療養のため転居した代々木は当時雑木林で、春草はここで画家たちや、師である天心の文学性を重要視する浪漫的気質からも遠く離れ、一人静かに自然を観察し、本来持っている冷静かつ理知的な個性を呼び覚ましていきました。「落葉」の連作が持

つシャープな構成は、このような春草の気質が十分に表された成果といえ、まだ武蔵野の面影を残していた当時の代々木を写した自然主義と、日本の伝統に根ざした装飾が表現に結実しています。本作は第3回文展出品作(重要文化財)に最も近似しており、文展作に描かれている若杉とトチノキが本作では左右逆に、更にトチノキがカシワに、俯瞰する視点の高さが違うなど多少の違いが全体的に見られますが、写実を超越し、装飾的かつ象徴的方向へ行くこととする進化が見られます。

春草は「落葉」の連作を完成したあと再び健康を害し、2年後36歳という若さで夭折しました。

福井県立美術館

友の会

< 参加者の声 >

私は毎年出席させて頂いておりますが、今回は長野県の美術館とすることで初めての企画、長野県に美術館といたら小布施しか知らず、美術館ってあるのかしらと思いました。八回も観光しながら、大変知識音痴、恥ずかしい思いです。

始めに、周りを山々に囲まれた田園地帯の丘陵地の頂にある美術館、無言館を訪れました。平成九年に上田市に作られたとのこと。太平洋戦争で命を散らせた東京美術学校生等の画学生の遺作、遺品が展示されていました。さすがは美大生、すばらしい画風、色彩、描写に感銘を受けると共に肉親に対する感謝の手紙を読み涙した次第です。

翌日、長野県信濃美術館で東山魁夷氏のすばらしい日本画を鑑賞、どうしてこれだけの描写ができるのだろうか、一枚一枚感銘を受けながら前進するのみ。続いて菱田春草氏の日本画は、これまた繊細な描写で私も真似していきたくと思います。

水野美術館の日本庭園はすばらしいですね。展示してある日本画は、さすが大家の巨匠、大変に勉強になりました。ありがとうございました。今回の旅行、油絵がないのはちょっと残念でした。(八木哲雄さん)

* * *

秋の友の会美術館めぐり、行き先が長野というだけで参加しました。現代美術が大好きな私でしたが、東山魁夷はすごく感動しました。参加してよかったと思います。ありがとうございました。次回は現代美術、期待しています。

(牛丸すみ子さん)

* * *

芸術の秋、秋晴れの信濃路へ期待ふくらませ出発しました。最初の無言館はいろいろ考えさせられ、二日目の信濃美術館、水野美術館と感動させられ、その上食欲の秋も満喫させていただき、楽しい旅行になりました。無事、終えた事に感謝しつつ…有難うございました。(無記名)

●訪れた美術館…戦没画学生慰霊美術館無言館、長野県信濃美術館、水野美術館



戦没画学生慰霊美術館無言館



長野県信濃美術館



水野美術館

秋の見学会 (平成23年10月13日～14日)

お知らせ 平成24年度 実技講座受講生の募集

福井県立美術館では「日本画」「洋画」「素描(デッサン)・水彩画」の基礎講座、専門講座の受講生を募集します。

詳細は当館に備えてある募集要項やホームページをご覧ください。

各講座／定員：20名

◎募集期間

■基礎講座
3月1日(木)～20日(火・祝)まで

■専門講座
5月1日(火)～31日(木)まで

平成24年度 会員募集のお知らせ

詳しくは各事務局
(電話番号はいずれも0776-25-0452)まで
お問い合わせください。

福井県立美術館 友の会
◎年会費 2,000円(一般) ◎特典多数有

福井県立美術館 ボランティアの会
◎年会費 1,000円(通信費)

◎3月～4月の休館日について

展示替え、館内メンテナンス等のため、次の日は休館とさせていただきますのでご了承ください。

3月1日(木)、12日(月)、26日(月)～4月4日(木)、4月16日(月)

貸館情報 [3/2～4/30]

3/2～3/4 ● 福井大学書道科書道部卒業修了展	4/6～4/8 ● 水木留蘭傘寿書展
3/2～3/4 ● 輝け子どもたち写真展	4/11～4/15 ● 第30回究展
3/7～3/11 ● 第13回日象会福井支部展	4/11～4/15 ● 第20回グループS洋画展
3/15～3/18 ● 古希記念小松鶴泉書作展・勝山裕泉書作展	4/11～4/15 ● 第35回琢の会洋画展
3/21～3/25 ● 木村匡美作 千福寺蔵佐竹本三十六歌仙扇面画展	4/12～4/15 ● 書業60年記念一垣内楊石の書法世界
3/23～3/25 ● 第8回藤島高等学校書道部展	4/20～4/22 ● 第32回鳳友会展
4/5～4/8 ● 第27回シルバー福井展	4/20～4/22 ● 遊和会書展
4/5～4/8 ● 第10回グループ彩 水彩・スケッチ作品展	4/26～4/30 ● 第11回水彩画を楽しむ会作品展
4/5～4/8 ● パレットJIN水彩画・油彩画作品展	4/27～4/30 ● 大森富子日本画展

福井県立美術館 次回の企画展案内

ストラスブール美術館展

2012年4月20日(金)～5月20日(日)
休館日 5月14日(月)



▲ピエール・ボナール 「テーブル上の果物鉢」 1934年頃

ドイツの国境近く、フランス北東部のアルザス地域圏の首都ストラスブールの美術館の所蔵品の中から、シスレー、ゴーギャン、ボナール、マリー・ローランサン、マグリット、ピカソ他、19世紀から20世紀にかけて活躍した59作家83点を選び、近・現代ヨーロッパ美術の軌跡をたどる展覧会です。



▲ポール・ゴーギャン 「ドラクロワのエスキースのある静物」 1887年頃